



知っていますか？
子どもたちが学んでいる
同和問題の歴史



(人権・同和教育研究指定校の授業風景)

小・中学校社会科教科書の
同和問題に関する記述が見直されてきています
みなさんも子どもたちと一緒に学んでみませんか

室町時代

★数々の文化を育んだ人々

1 室町時代に造られた慈照寺(銀閣)の庭園は差別された人々によって造られ、龍安寺の庭園は造園の一部に差別された人々が携わっていたといわれていることを知っていますか。



【京都龍安寺の庭園】

社会科の教科書では、室町時代の記述に差別されていた人々が登場します。この時代の人々は、死や自然災害など人間の力が及ばないことを恐れ、それらにかかわる仕事をしたり、特別な技能を發揮したりする人々を自分たちの仲間と異なる人ととらえて排除し差別しました。しかし、差別されていた人々の中には、庭づくりや芸能など自分たちの仕事に誇りを持ち、技術を追求するなど、伝統文化に大きく貢献した人もいました。

江戸時代

★「士農工商」という序列はなかった

2 士農工商という身分上の序列はなかったことを知っていますか。

江戸時代には「士農工商」という身分のくくりや序列はありませんでした。学校では「農工商」については、「百姓」「町人」という名称で学習しています。それぞれ、住んでいる場所によって身分が決まり、身分に応じた役が課せられていましたが、職業に基づく上下の関係はありませんでした。また、百姓や町人とは別に厳しく差別されていた人々もいましたが、「百姓」「町人」の下に置かれたのではなく、別の世間に属する身分と考えられていました。

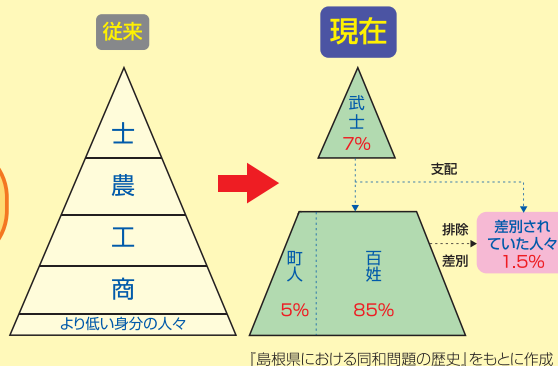
★社会を支え、たくましく生きた姿

3 差別されていた人々の中にも、田畑を所有し、百姓や町人と変わらない経済力を持つ人がいたことを知っていますか。

県内外の史料から、田畑を所有し年貢を納めていた人がいたこと、農村に住む人々の家と比べて、広さや構造に差がない住居を持つ人がいたこと、江戸時代後半に日本全体の人口が停滞する中で、差別されていた人々が住む村の人口が増えていたという例があることがわかっています。経済的な豊かさがある背景にあるともいわれています。

日常生活の上で差別はありましたが、そのことによって生活手段が奪われていたわけではありません。差別されていた人々は、牛馬の皮革を利用して太鼓や履き物を製造したり、芸能にたずさわったり、あるいは人々の生活を守る役割を担うなど、百姓・町人らとかわり合い生活を支え合っていました。また、彼らの中にはその知識や技能を生かし、近代医学の発展に大いに貢献した人もいました。

身分制度のイメージ図



※百姓は農民だけではありません。
『百姓』…村に住み、農業をはじめ、
様々な仕事に携わった人々の
ことです。
【例：農民、漁民、山仕事、猟師、他】

明治から現代



★新しい形の差別

4 いわゆる「解放令」が出された明治時代以降も、差別がなくならなかったことを知っていますか。

「解放令」は、江戸時代の身分制度を終了させ、差別解消に向けた取組の法的根拠となりました。しかしながら、従来からの差別意識に加え、近代化の流れの中で生活改善の遅れや生活の困窮化が顕著な地域に対する新たな偏見や差別が生まれました。差別された人々は、就学や就職の機会が奪われるなど、差別と貧困に苦しみました。

★差別をなくす運動

5 差別に苦しんできた人たちが、差別を無くすための運動に取り組んだことを知っていますか。

「解放令」以降も厳しい差別に苦しめられた人々は団結し、差別をなくす運動に立ち上がりました。島根県においては、大正時代に「出雲同志会」が結成され、被差別部落の人々自身の団結による取組が始まっています。また、その後、県行政と被差別部落の人々は協力し合って「島根県和敬会」を結成し、差別撤廃に向けての運動を県内で展開しました。教科書では「全国水平社」創立大会で、山田孝野次郎少年が演説したことが紹介されています。

★一人一人を大切に作る社会に向けて

6 識字学級を知っていますか。



識字学級とは、社会で生活していくために必要な文字の読み書きや言葉を学ぶ学級です。差別や貧しさから、学齢期に教育を受ける権利を奪われた人々や日本語の読み書きに苦勞する人々が学んでいます。

地域を支えた人々～島根県内の史料から見た差別されていた人々の姿～

【生命を支える～薬研～】



この器具を薬研と言います。薬の原料となる草や動物の骨などをくぐり粉にする道具です。この道具を使い、医療手引書に書かれている薬などを調合していたと考えられます。差別されていた人々の中には、このような道具を使って医療にかかわる仕事をして社会を支えた人もいました。

【文化や産業に携わる～皮革～】

この太鼓は、今から約400年前に作られ、津和野城の時報の太鼓として使用されたものです。江戸時代、差別されていた人々の中には、死牛馬の処理という役割を果し、高い皮革製造の技術をもった人々がいました。皮革は主に武具などに使われていましたが、江戸時代後半には雪駄づくりも行われるようになりました。また、皮なめしの過程でとれる膠は、生活用具である墨やろうそくの原料として使われ、人々の生活を豊かにしていきました。



子どもたちを差別から守るために

同和問題は解決かいけつに向かっているものの、未だいまに完全に解決している状況にはありません。例えば、就職しゅうしよくや結婚など一人一人のライフ・ステージの大切な場面で、子どもたちがそれまで意識してこなかった差別の問題とつぜん ちよくめんに突然に直面してしまうことがあります。

大切な子どもたちを「差別されること」はもとより、「差別すること」からも守るためには、まず私たち大人が、同和問題に向き合い、正しく学ぶ必要があります。

子どもたちは同和問題に関する学習を通して、同和問題について正しい知識を学んでいます。みなさんも学校公開日（授業参観日）などの機会に子どもたちの学習の様子を参観されてはいかがでしょうか。

中学校では昭和47年から、小学校では昭和49年から同和問題に関する記述が教科書に掲載されるようになり、同和問題の学習が始まりました。その後、同和問題の歴史に関する研究が進められ、その成果を受けて教科書の記述内容が大きく見直されています。



島根県教育庁人権同和教育課

電話 0852-22-5432 FAX 0852-22-6166

<http://www.pref.shimane.lg.jp/jinkendowakyoiku/>

島根県環境生活部人権同和対策課 人権啓発推進センター

電話 0852-22-6476 FAX 0852-22-9674

西部人権啓発推進センター

電話 0855-29-5529 FAX 0855-29-5531

<http://www.pref.shimane.lg.jp/jinkenkeihatsu/>

【 リーフレット本文中の「 室町時代 」の記述についての追加 】

解説

銀閣で有名な慈照寺は、室町幕府の8代将軍だった足利義政の別荘としてつくられはじめました。しかし、その完成を待たずに義政が亡くなったため、遺言により寺院として完成したのです。その庭園の造営には善阿弥などの「山水河原者」とよばれた当時の差別されていた人々が加わっていた記録が残っています。

また、“虎の子渡し”の石庭で有名な竜安寺は、水墨画や作庭で有名な相阿弥という河原者が、庭の造営に関わっていたという伝承があります。